

三初抄

妙法

百廿六

小倉山庄色紙和哥

迫傍應圓滿院敬基

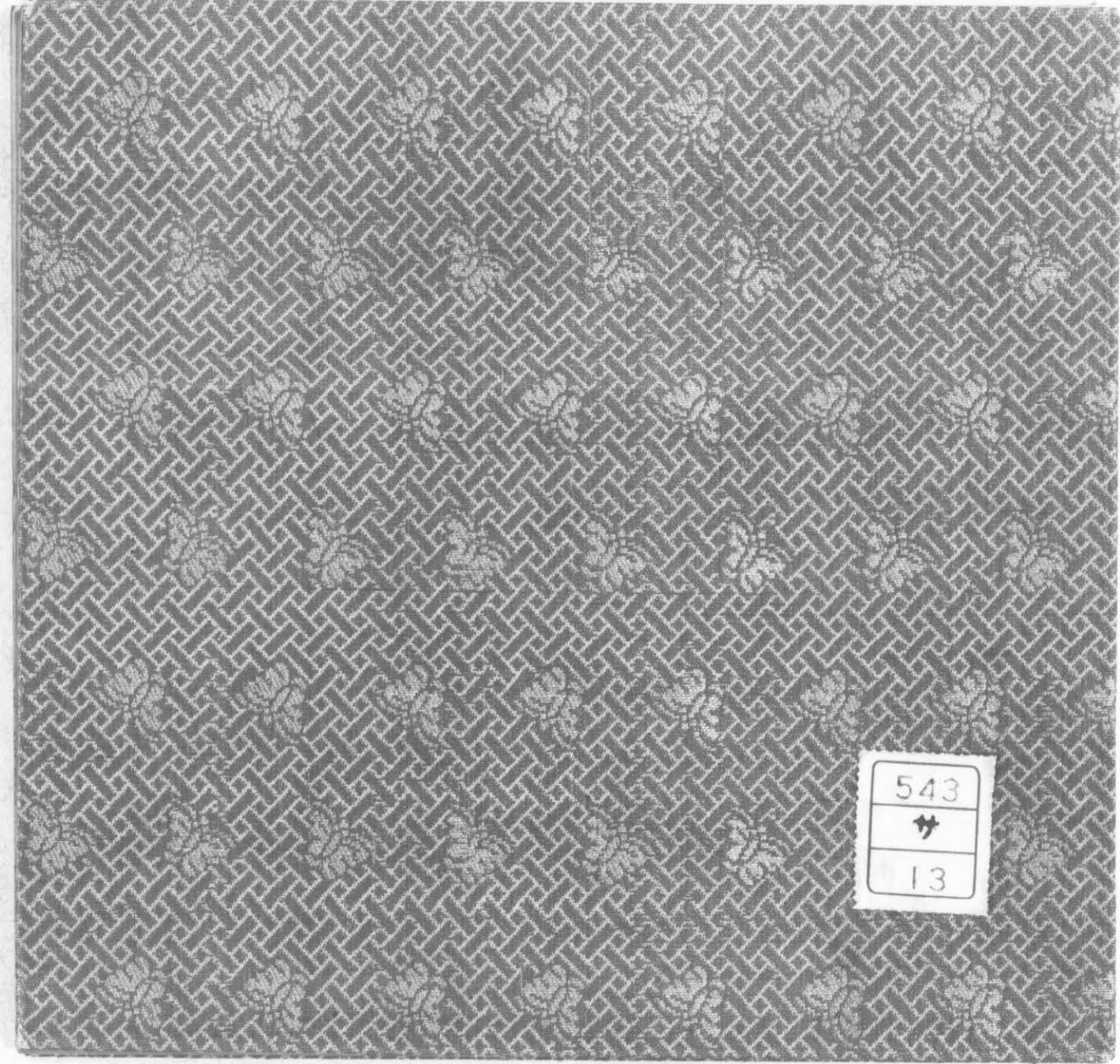
詠歌之大概

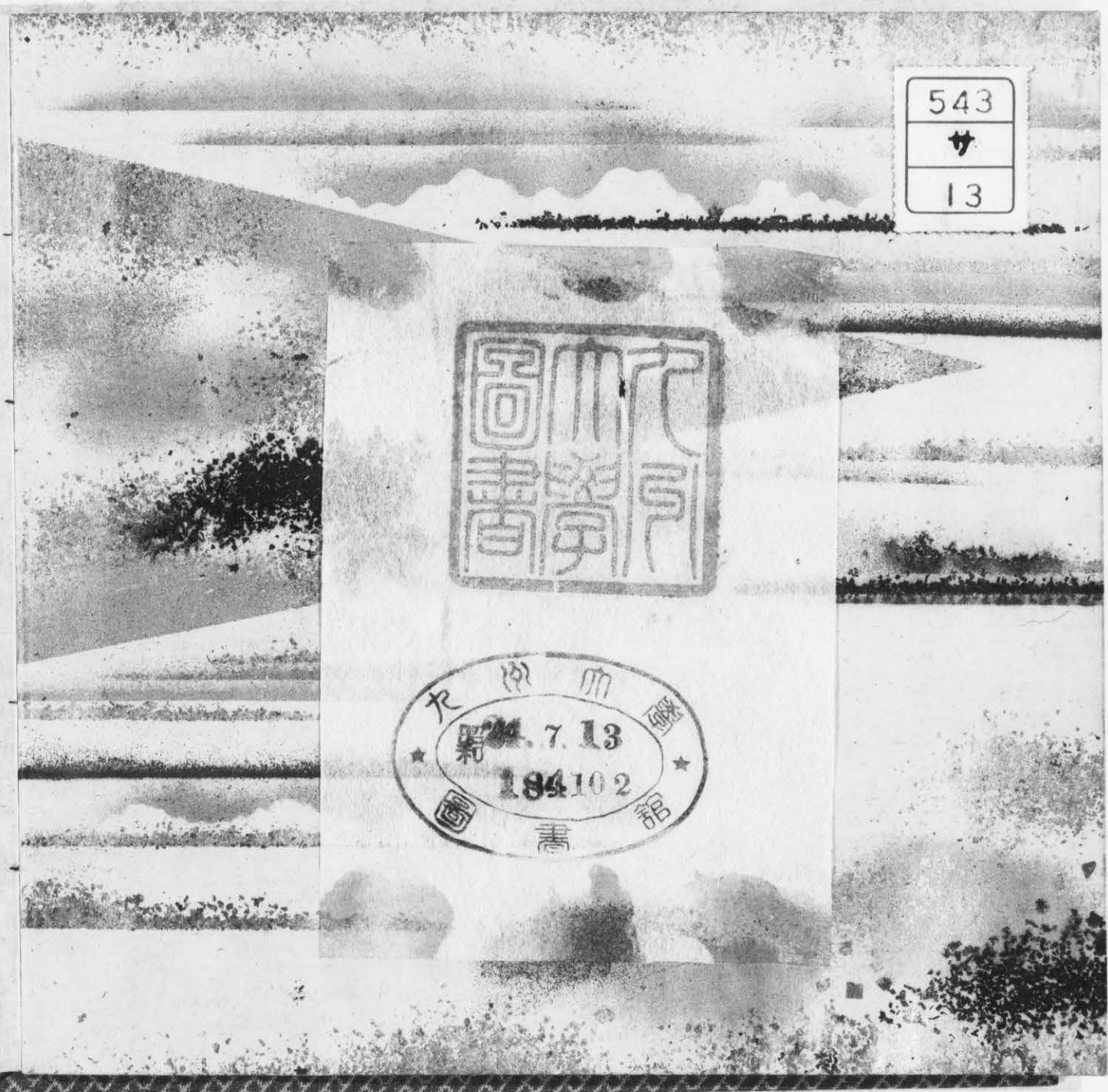
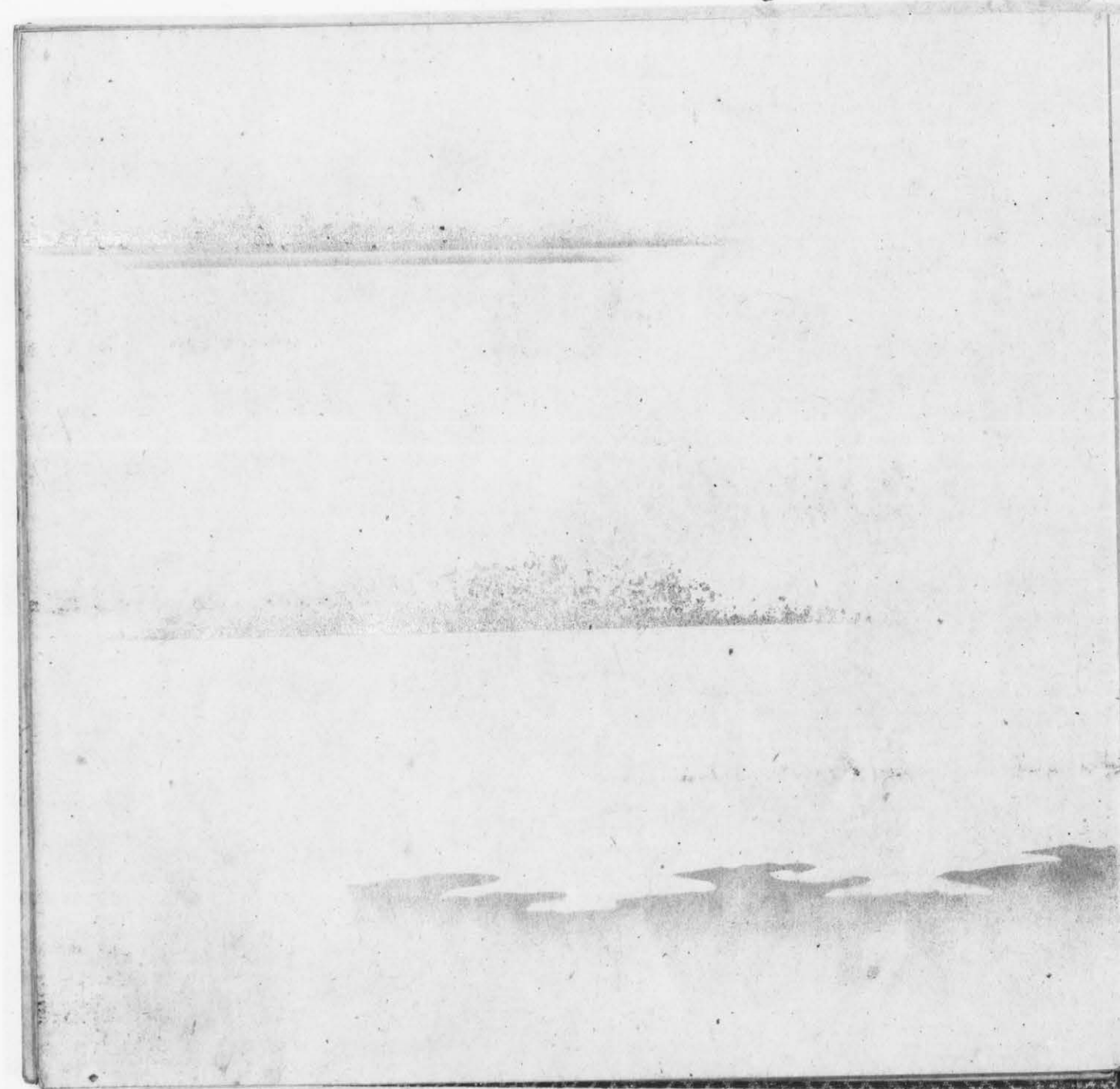
未考

未考記

中院深雲院内在

通







未来記

お新得書

春

春のつらき花はさかすかに

ふみしるはなはさかすかに

うらみなるはなはさかすかに

こころのあはれはなはさかすかに



去、お嫁らみなるうきまの
わとや、うらむれしはん

夏

夏乃きて押花あつらひ
こほとむらゝるる
秋もすくやみれぬ程を
あつちのうらむれしはん

あつちのうらむれしはん
しつゝもむらゝるる
秋もすくやみれぬ程を
あつちのうらむれしはん
あつちのうらむれしはん
あつちのうらむれしはん

友とてしほふはゆきまらるる月

いづれにこそしほふはゆきまらるる月

きよわもそえはよみらぬあひん

あふりしよもあふりしよもあふりしよ

玉のこもりきさきののり

夏衣もあふりしよもあふりしよ

あふりしよもあふりしよもあふりしよ

いづれにこそしほふはゆきまらるる月

あふりしよもあふりしよもあふりしよ

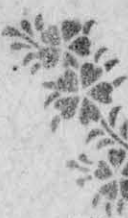
秋

あふりしよもあふりしよもあふりしよ

あふりしよもあふりしよもあふりしよ

あふりしよもあふりしよもあふりしよ

あふりしよもあふりしよもあふりしよ



あはれなる御心よ
いよよいよよいよよいよよ

あはれなる御心よ
いよよいよよいよよいよよ

あはれなる御心よ
いよよいよよいよよいよよ

あはれなる御心よ
いよよいよよいよよいよよ

あはれなる御心よ
いよよいよよいよよいよよ

あはれなる御心よ
いよよいよよいよよいよよ

あはれなる御心よ
いよよいよよいよよいよよ

あはれなる御心よ
いよよいよよいよよいよよ

あはれなる御心よ
いよよいよよいよよいよよ

あはれなる御心よ
いよよいよよいよよいよよ

あはれなる御心よ
いよよいよよいよよいよよ

あはれなる御心よ
いよよいよよいよよいよよ

あはれなる御心よ
いよよいよよいよよいよよ



捨くねいこくしつなふれふか
やすくもれ花しよしく

冬

ふらさうさうさうさうさう
うさうさうさうさうさう
海
さうさうさうさうさうさう

母
あつしのまらまのうさう
よんさうさうさうさうさう
あつさうさうさうさうさう
あつさうさうさうさうさう
あつさうさうさうさうさう
あつさうさうさうさうさう

かまのりへくはくへく

しんせいのりへくはくへく

しんせいのりへくはくへく

しんせいのりへくはくへく

しんせいのりへくはくへく

しんせいのりへくはくへく

しんせいのりへくはくへく

しんせいのりへくはくへく

しんせいのりへくはくへく

徳

しんせいのりへくはくへく

しんせいのりへくはくへく

しんせいのりへくはくへく

しんせいのりへくはくへく

うらむる庭のゆく秋は
人のこころをぬるるを

雨中吟

ほゆと行そとなく
白もきく秋の秋
うらむる庭のゆく
あぢくもさすく
あぢくもさすく
うらむる庭のゆく

疎なるをばしむるは

うたのうたをばしむるは

うたのうたをばしむるは

うたのうたをばしむるは

うたのうたをばしむるは

うたのうたをばしむるは

うたのうたをばしむるは

うたのうたをばしむるは

うたのうたをばしむるは

うたのうたをばしむるは

うたのうたをばしむるは

うたのうたをばしむるは

うたのうたをばしむるは

うたのうたをばしむるは

あつてこそよからうたなるまを

娘よしのわらなるまを

花のまをよとよきよよとよ

あつてもよき秋の松のあ

娘よしのわらなるまを

花のまをよとよきよよとよ

あつてもよき秋の松のあ

あつてもよき秋の松のあ

あつてもよき秋の松のあ

あつてもよき秋の松のあ

あつてもよき秋の松のあ

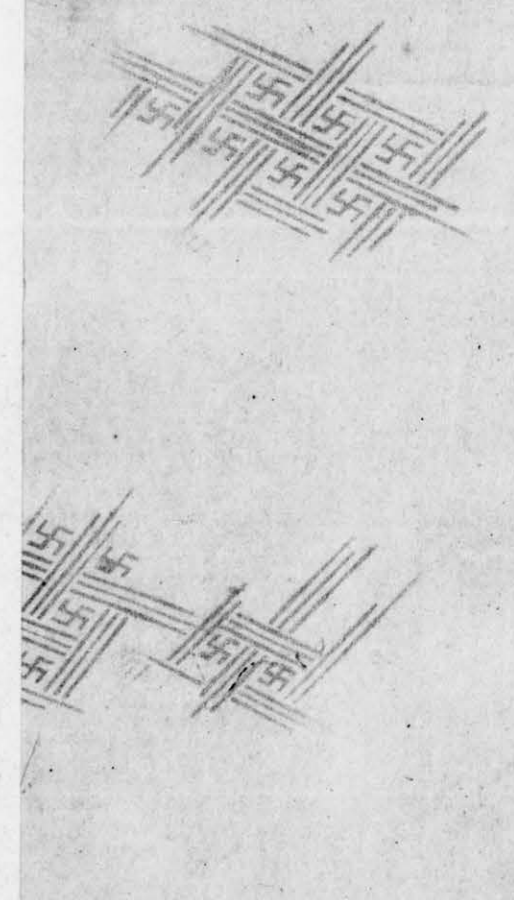
あつてもよき秋の松のあ

あつてもよき秋の松のあ

あつてもよき秋の松のあ

は風靜をいへりやまのふり
ふし母平のふらりやす
母兒をいへりやまのふり
ふし一はふりやまのふり
ふし母靜をいへりやまのふり
ふし母静をいへりやまのふり
ふし母静をいへりやまのふり
ふし母静をいへりやまのふり

前中納言藤原朝



九州大學圖書印

